

## 平成25年度 学校薬剤師部会全国担当者会議

日 時：平成25年10月23日(水) 13:30～16:30

場 所：日本薬剤師会会議室

出席者：吉田力久 西村正広 沖田敏宜

### 講演1 これからの学校薬剤師～健康相談・保健指導への対応～

文部科学省 スポーツ・青少年局学校健康教育課

健康教育企画室 健康教育調査官 北垣邦彦先生

学校薬剤師の新たな職務として、学校保健安全法施行規則に、保健相談に従事すること、保健指導に従事することということが、平成21年4月1日に盛り込まれた。これにより、特定の教職員に限らず、養護教諭、学校医・学校歯科医・学校薬剤師、担任教諭など関係職員による積極的な参画が求められるようになった。学校薬剤師も町の科学者として、各学校において、児童生徒等の多様な健康課題に的確に対応する必要がある。

### 講演2 学校薬剤師としてのドーピング防止活動について

千葉県学校薬剤師会

会長 畑中 範子 先生

国体におけるドーピング検査は、平成15年の静岡国体から開始され、昨年度の岐阜国体まで、ドーピング検査陽性者は、ゼロである。今年度から、各都道府県から事前に選出されていた5名の競技者を対象とする競技会外検査を第68回国民体育大会では実施せず、今後、協議会場に設置しているアウトリーチブース等でのアンチドーピングに関する啓蒙活動に切り替えていくこととなった。学校薬剤師におけるドーピング防止活動は、中学校高等学校では、くすり教育にプラスしてドーピング防止を、部活動では、トレーナーやスポーツドクターと連携して、監督コーチへの情報提供、ジュニア強化では、啓蒙活動等がある。高等学校では、平成25年度から高等学校で実施される新学習指導要領の体育理論において、「オリンピックムーブメントとドーピング」が盛り込まれ、中学校では、スポーツにおける薬物の不正使用でドーピングを取り上げることが可能である。

### 報告1

平成25年度学校薬剤師部会活動報告

今期重点(課題)

学校薬剤師のビジョンの実践

部会員名簿の整備・・・まだ整っていない

くすり教育の充実

薬物乱用防止、ドーピング防止 等 各種啓蒙資材等の検討

広報活動の強化  
薬学生実務実習への協力  
研修会等の見直し  
若手学校薬剤師の育成

平成25年度 学校薬剤師関係 大会、講習会等の概要（予定）

平成25年度日薬学薬部会業務分担WG

学校薬剤師部会WGリーダー会議の報告

平成25年度 学校薬剤師研修会のお知らせ 等

報告2 学校薬剤師部会の負担金について

会員1人当たり年額 1,000円を都道府県薬剤師会に請求する  
日薬会員で無い学校薬剤師の場合、寄付金として処理する

報告3 高校用DVDの活用等について

DVDアンケートの集計結果の中間報告があった。7月時点で627枚/6,280枚の回収があり、回収率10%であった。12月まで期間を延長するので、提出してほしい。回答枚数上位3府県は、岐阜県50枚(50%)、大阪府45枚(15%)、静岡県38枚(21%)で、回収枚数10枚以下が、18県、回収枚数0枚が、6府県であった。

1. DVDの内容を確認した学薬は、75%であった
2. 授業で活用した章は、「5章：医薬品の使用法」、「6章：副作用」、「1章：医薬品とは」の順であった。
3. 73%の学薬は、DVDを教師に提供しているが、83%が養護教諭で保健体育教諭には、僅か12%であった。
4. DVDを提供した際に解説や説明を実施したのは、42%であった。
5. 医薬品教育に参画の予定のある学薬は、僅か10%であった。
6. 「学校薬剤師用手引き」は、70%の学薬が役立っていた。